

令和6年度 研究推進計画

府中町立府中小学校

1 研究主題

自ら学ぶ力を育む授業の創造
～自己決定を促す単元・授業づくり～

2 研究主題設定の理由

昨年度までの3年間、「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の指定を受け、PBLの視点で、総合的な学習の時間及び生活科を中心に授業改善を行ってきた。児童とルーブリックを共有することを通して、教師も児童もゴール像を明確にし、児童が主体となって学習を展開する姿が見られるようになってきた。また、学校全体で読書活動を推進することにより、読書に親しむ児童の割合は高く、図書を活用して学びを広げたり深めたりしている姿も多く見られる。しかし、学習に課題を抱えている児童への指導が難しい、児童の学習意欲が継続されにくいなどの課題もあり、すべての児童の考える力、表現する力が高まっているとは言えない。

変化の予測が困難な未来に向けて、これから生きていく子どもたちには、さまざまな変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことが求められている。児童が「生涯にわたって主体的に学び続ける」ためには、教師が準備した一律の学習内容や学習方法だけではなく、児童が設定した学習内容や学習方法などで学ぶ経験が必要である。児童一人一人が自分や自分達の学習と生活についての当事者意識をもち、今できることや手元にあるものを素材にして解決しようとする考え方を育むことを大事にしていきたい。そこで、今年度は「自ら学ぶ力」の育成に力を入れて取り組んでいこうと考え、主題を設定した。

3 研究仮説

児童が学習進度や学習内容、学習方法などについて自己決定をする単元・授業づくりを行うことで、児童の自ら学ぶ力が高まるだろう。

4 研究内容

◎自己決定を促す単元・授業づくり

- (1) 「府中小授業スタイル」の確立
 - ・「時間を守る」「あいさつをする」ことを徹底させるための指導の充実を図る。
 - ・学習内容の確実な定着を図り、学びを深めるために「聴く」力を高めるための指導を重視する。
 - ・既存の「授業スタイル」を見直し、「教師が主役」の授業から「子ども達に任せる」授業の形を探る。
 - ・自分の考えを表現し合い、互いの考えを交流することができるような話し合い活動の充実を図る。
 - ・設定した課題に向かって多様な他者と協働しながら解決するという体験ができる活動を取り入れる。
- (2) 「自ら学ぶ力」の育成
 - ・「自ら学ぶ」児童にするために、教師の役割はどうあるべきかを意識する。
 - ・めざす姿を児童自らが考え、自分事として課題解決を行えるような探究的な学習を行うこと

を意識したカリキュラム・マネジメントを行う。

- ・家庭学習や自学ノート等、自分の学習を自分で計画して行う力を養う指導を工夫する。

5 研究方法

学年で研究教科を決定し、授業提案を行い、ブロック・全体で協議する。

6 検証の指標

短期経営目標	目標達成のための方策	評価指標
○考え、表現する力	(1)「府中小授業スタイル」の確立 ・時間を守る、あいさつ ・「聴く」力 ・自己決定の場 ・話し合い活動 ・協働的な活動 (2)「自ら学ぶ力」の育成 ・教師の役割 ・探究的な学習 ・家庭学習、自学ノート	・児童アンケート①「『府中小授業スタイル』を守って学習している。」②「自分で計画を立てて学習している。」の2項目の肯定的評価を80%以上にする。 ・教職員アンケート①「児童が『府中小授業スタイル』を守れるように意識して指導している。」②「『自ら学ぶ力』の育成を意識して単元・授業づくりを行っている。」の2項目の肯定的評価を80%以上にする。

7 研修スケジュール

	○自分を律する力 ○人と関わる力 【生徒指導部】	○考え、表現する力 【教務部】	○考え、表現する力 【研究部】	○自分を律する力 【健康安全部】
4月	今年度の研究の方向性について共有化を図る。			・熱中症予防研修
5月	・特別活動ミニ研修(4月)	読書活動の取組について共有化を図る。	「自ら学ぶ力」について、理論研修を行う。	
6月	・特別活動ミニ研修		全体・ブロック別授業研修を行う。 ○低学年・中学年・高学年で全体研修とブロック研修を1回ずつ ○特別支援で1回全体研修	・アクティブチャイルドプログラム研修 ・メンタルヘルス研修
7月	・特別活動研修（講師招聘） ・道徳研修			
8月	・SCによる研修 ・特別支援コーディネーターによる児童理解研修	・全国学力・学習状況調査結果分析 ・質問紙結果分析	指導案作成及び検討を行う。	

9月			全体・ブロック別授業 研修を行う。	
10月			○低学年・中学年・高 学年で全体研修とブ ロック研修を1回ずつ ○特別支援で1回全体 研修	
11月	・特別活動ミニ研修			
12月				
1月				
2月	今年度の研究のまとめを行う。			
3月	来年度に向けて、研究の方向性を検討する。			